

とな 成人 ワクチン接種スケジュール



2025年11月版

ワクチン名	接種回数	接種時期	
		20歳 - 49歳	50歳 - 59歳 60歳 65歳 70歳 75歳 80歳 85歳
B型肝炎	3回		
肺炎球菌(結合型) (PCV15・20・21)	1回		
肺炎球菌 (PPSV23)	1回		60-64歳で決められた基礎疾患のある人は定期接種可能
三種混合 (ジフテリア・百日咳・破傷風)			
ヒブ (インフルエンザ菌b型)	1回		
破傷風トキソイド	3回		
麻しん・風しん (MR)	2回		
おたふくかぜ	2回		
水痘 (水痘・帯状疱疹)	水痘 2回 帯状疱疹 1回		60-64歳で決められた基礎疾患のある人は定期接種可能
带状疱疹	2回		
日本脳炎	3回		
インフルエンザ	毎年秋に1回		60-64歳で決められた基礎疾患のある人は定期接種可能
新型コロナ	毎年秋に1回		60-64歳で決められた基礎疾患のある人は定期接種可能
HPV (ヒトパピローマウイルス)	2価 3回		スケジュールは最新情報をご確認ください
	4価 3回		
	9価 3回		
髄膜炎菌 (4価)	1回 (リスクが高い人2回)		
A型肝炎	3回		
RSウイルス	アレクスピーー筋注用 1回		50-59歳は重症化リスクの高い人
	アブリスボ®筋注用 1回	妊娠(24)28~36週の妊婦(母子免疫)	



不活化ワクチン

生ワクチン

mRNAワクチン



定期 法律に定められた期間で接種した場合は無料(公費負担)

任意 接種費用は自己負担(自治体によっては接種費用の助成があります)ですが、ワクチンの必要性は定期と同じです



一般社団法人
 日本プライマリ・ケア連合学会
 Japan Primary Care Association

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会(JPCA)/感染症委員会ワクチンチーム



おとな 成人 ワクチン接種スケジュール



2025年11月版

ワクチン名	接種間隔	対象者・注意事項
B型肝炎	①-②の間は4週以上あける ①-③の間は20週以上あける	・ハイリスク者：（医療従事者、透析患者、海外長期滞在者など） ・予防したい人はだれでも
肺炎球菌(結合型) (PCV15・20・21)		高齢者または肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高い人
肺炎球菌 (PPSV23)	前回の接種から5年以上あける	定期：65歳の者 ・60歳以上で心臓・腎臓または呼吸器の機能に自己の身の周りの日常生活活動が極度に制限される程度の障害を有する人 およびHIVウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する人 接種推奨： (1) 脾臓摘出した人の肺炎球菌予防（健康保険適用あり） (2) 鎌状赤血球症、脾機能不全、心臓・呼吸器の慢性疾患、腎不全、肝機能障害、糖尿病、慢性髄液漏等基礎疾患のある人、免疫抑制剤治療予定者（治療開始まで14日以上余裕のある場合）
三種混合 (ジフテリア・百日咳・破傷風)	接種歴が3回未満の人 ①-②の間は3-8週以上あける ①-③の間は12-18か月あける	破傷風トキソイドまたは三種混合ワクチンの接種歴が3回未満の人：破傷風トキソイドを計3回になるまで接種 3回以上の人：前回の接種から10年ごとに破傷風トキソイドを1回接種 ・諸外国では、10年ごとの接種のうち、百日咳予防のため1回以上を破傷風トキソイドからTdapに置換することを推奨 日本でも三種混合（DPT：DTaP）ワクチンの接種が可能 ・注意：Tdapは日本未承認のワクチン 日本三種混合（DPT：DTaP）は破傷風トキソイド含有量がTdapの半分 ・外傷後の破傷風トキソイドの接種は、外傷の程度と接種歴に準じる ・1967年以前生まれの人は定期接種になかったため、破傷風予防ワクチン接種歴のない人が多い
破傷風トキソイド	接種歴が3回以上の人 10年ごとに1回接種	
ヒブ (インフルエンザ菌b型)	1回接種	5歳以上の脾機能不全・補体欠損症・HIV感染症・骨髄移植後でヒブワクチン未接種者
麻しん・風しん (MR)	①-②の間は4週以上あける	定期 風しん第5期： 1962年4月2日から1979年4月1日生まれの人 男性 2024年度までに実施した風しん抗体検査にて、抗体が不十分であった人のみワクチン接種可能（2027年3月末まで）
おたふくかぜ	①-②の間は4週以上あける	2回の接種歴がない かつ 感染歴のない人
水痘 (水痘・带状疱疹)	①-②の間は4週以上あける	【水痘予防：2回接種】 任意：2回の接種歴がないかつ感染歴のない人 【带状疱疹予防：1回接種】 定期：①年度内に65,70,75,80,85,90,95,100歳になる人、100歳以上の方(2025年度のみ) ②60～64歳で、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）による免疫の機能の障害があり、日常生活がほとんど不可能な人 任意：50歳以上の人

ワクチン名	接種間隔	対象者・注意事項
带状疱疹	①-②の間は2か月-6か月あける *リスクが高い18歳以上： ①-②の間は1か月-2か月あける	定期：①年度内に65,70,75,80,85,90,95,100歳になる人、100歳以上の方(2025年度のみ) ②60～64歳で、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）による免疫の機能の障害があり、日常生活がほとんど不可能な人 任意：50歳以上、リスクが高い18歳以上
日本脳炎	①のあと1-4週後に②、その1年後に③	・接種歴が3回ない人：3回接種 ・接種歴が3回ある人：日本脳炎流行地へ渡航する際に1回 注意：北海道は2016年4月から小児に定期接種開始
インフルエンザ	定期：・65歳以上 ・60歳以上65歳未満で心臓・腎臓または呼吸器の機能に自己の身の周りの日常生活活動が極度に制限される程度の障害を有する人 およびHIVウイルスにより日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する人	任意：予防したい人はだれでも 年齢によって使用する製剤や投与量が異なる
新型コロナ	製剤ごとに定められている方法 最新情報は厚生労働省のホームページなどを参照 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_00184.html	
HPV (ヒトパピローマウイルス)	①-②の間は1か月以上あける ①-③の間は6か月以上あける 標準的な接種ができなかった場合、①-②の間は1か月以上、①-③の間は5か月以上、かつ②-③の間は2か月半以上あける ①-②の間は2か月以上あける ①-③の間は6か月以上あける 標準的な接種ができなかった場合、①-②の間は1か月以上、②-③の間は3か月以上あける	2価ワクチン 任意：10歳以上の女性 4価・9価ワクチン 任意（4価）：9歳以上の男女 任意（9価）：9歳以上の男女 キャッチアップ接種 1997年4月2日から2008年4月1日生まれの女性 2024年度中に1回以上接種した人は、2026年3月末までに2・3回目の接種が可能
髄膜炎菌 (4価)	①-②の間は8週以上あける	2歳以上55歳以下 (1) 髄膜炎菌感染症流行地域へ渡航する人 (2) 学校の寮などで集団生活を送る人、送る予定の人 (3) マスギャザリングイベントに参加する人 (4) リスクのある患者（HIV感染症、補体欠損症、無脾症など）
A型肝炎	①-②の間は2-4週あける ①-③の間は24週以上あける	任意：A型肝炎流行地へ渡航する人 予防したい人はだれでも
RSウイルス		任意：アレックスビー筋注用：60歳以上、リスクが高い50歳以上 任意：アブリスボ筋注用：妊娠(24)28～36週の妊婦(母子免疫)、60歳以上 ・有効性がより高い妊娠28週～36週での接種を推奨



一般社団法人
日本プライマリ・ケア連合学会
 Japan Primary Care Association

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会 (JPCA) / 感染症委員会ワクチンチーム

